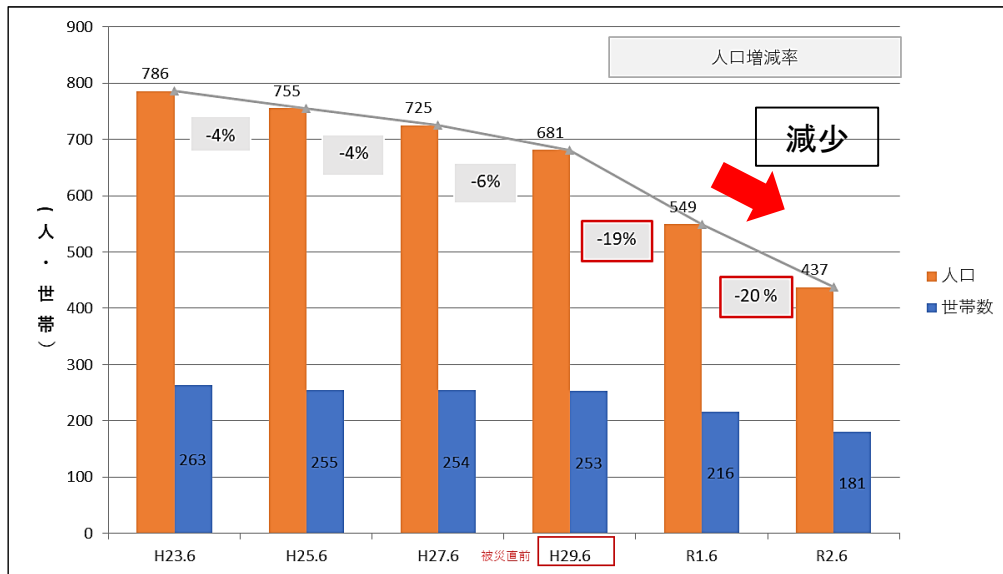


# 朝倉市復興実施計画(松末地区) 概要版 令和3年3月

## (1) 松末地区の現状



令和2年6月末時点  
人口:437人  
世帯数:181世帯

## (2) 平成29年7月九州北部豪雨被災状況

り災証明書交付状況に基づけば、損壊が著しいとされる全壊・大規模半壊については、市全体で379件。このうち松末地区は104件と約3割を占める。

大量の土砂や流木により発生した河道閉塞に伴う浸水被害が際立。市民の日常生活を支える公共施設や公民館、寺社仏閣等の地域コミュニティを支える施設も倒壊を含む被害。

朝倉市各地区における住家等建物被害の概要(り災証明書交付状況による、平成31年3月31日時点)

	松末	杷木	久喜宮	志波	朝倉	高木	三奈木	蜷城	その他	計
全壊	95	44	31	28	22	34	2	1	0	260
大規模半壊	19	22	50	4	19	5	1	0	0	119
半壊	37	41	73	21	269	20	29	157	19	664
一部損壊	35	30	32	15	165	36	29	64	21	428
計	186	137	186	68	475	95	61	222	40	1,471
平成29年6月 総世帯数	253	1,210	727	592	2,705	186	1,274	635	13,344	20,926
平成29年6月 総世帯数に対する 被害割合	74%	11%	26%	11%	18%	51%	5%	35%	0.3%	7.0%

## (3) 今までの意見(復興計画策定時の主な意見)

- 安心して住むことができる場所の確保(宅地造成、警戒区域等の見直し)
- 河川の改良復旧、地元意見の反映
- 以前の風景を基本とした河川整備(子どもが遊べる川)
- 堆砂した砂防・治山ダムの浚渫
- 今回の土砂を利用した農地改良復旧事業(区画整理)
- 松末小学校の利活用
- 地域資源である森林材の有効活用及び産業の創出(エネルギーの地域循環)等

## (4) 今年度の意見(令和2年度まちづくり協議会等で出された主な意見)

### すまいとコミュニティの再建について

- コミュニティ内での再建率26.9%の原因＝市が住宅地を提供するのが遅すぎた。
- 学校跡地を体験・交流の場にしてほしい。
- 学校跡地活用検討は、まちづくり協議会に小委員会を作って、詰めて議論していきたい。小委員会のメンバーはコミュニティ事務局に一任いただきたい。
- 朝倉市復興計画にある「地域資源を生かした...新たな産業の育成」＝松末は林業＝木材のエネルギー資源化の実現・小水力発電の実現
- 石詰遊砂地展望所及び公園化
- 交通安全対策について、マナーが悪い車両があり。
- 走行するダンプのマナー、ホコリ、雨の日の泥ハネに注意がほしい。
- 乙石川流域からの迂回避難路の整備 等

### 安全な地域づくりについて

- 繋ぎ込み水路について、砂防は、国交省が実施、治山の流末処理については、森林区域内での実施となるができる限りお願いしたい。
- 長期避難の解除に向けて、ソフト対策が必要→伝達手段
- 地域・集落の中で安全な建物を緊急時の避難場所とし周知徹底すべき。等

### 産業・経済の復興について

- 農業への支援、例えば集団営農の共同倉庫建設補助等を教えてほしい。
- 事務局から再生取組みにかかる提案あり。等

## (5) 第1回まちづくり協議会

日時: 令和2年7月22日(水) 19:30~21:30

場所: らくゆう館 視聴覚室

参加者: 松末地区 26名、朝倉市 7名

### 議事内容

朝倉市

- 生活再建状況について
- 復興計画の進捗について
- 朝倉市復興実施計画について



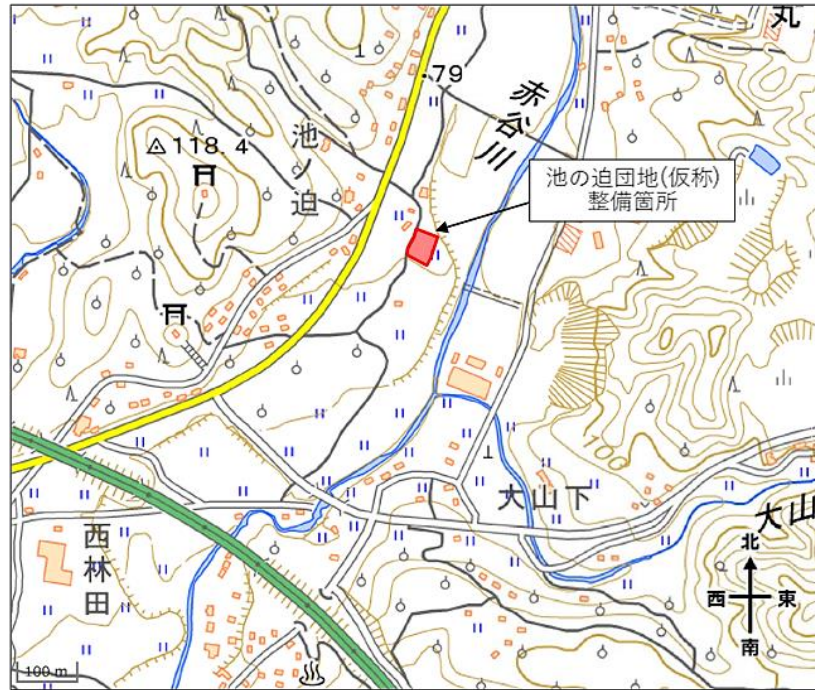
### 主な質疑内容

- 旧松末小学校跡地について、子ども達の体験の場として活用するのであれば、農業と林業の体験型施設にしてほしい。
- コミュニティ活動や地域行事等への支援について、具体的にはどのような活動が支援してもらえるのか。
- 県道52号を通る工事車両のマナーが悪く危険が伴う。対応をしてほしい。関係者にも伝わっているのか。
- 通常は、コミュニティから市に要望をあげてもらうが、緊急を要する時は、直接市に要請して欲しい。
- 池ノ迫区の定住促進住宅の計画を急いで頂きたい。池ノ迫区の定住促進住宅が整備されることで、その周辺にも人が住みやすくなる。
- 産業・経済の復興について、農業施設としての倉庫の新設や区画整理等に関して市から補助はあるのか。
- コミュニティ事務局が非常に狭く、支障が出ている。旧松末小学校にコミュニティ事務局を設置してほしい。
- 改修工事より一度解体して新設してはどうか。・全体の意見を集約する必要がある。
- 乙石川流域の迂回路について、砂防工事用の道路を工事終了後、迂回路として使用できないのか。
- 復旧事業として決定された予算が削減され、予定通りの整備ができないことがあるのか。
- 伝承広場の活用について、何か決まっているのか。

## (6) 復興にむけた具体事業

### ① 松末地域移住定住施策(池の迫団地(仮称))

松末地域に移住定住を希望する世帯に対して、定住促進住宅を提供する。7戸を予定。

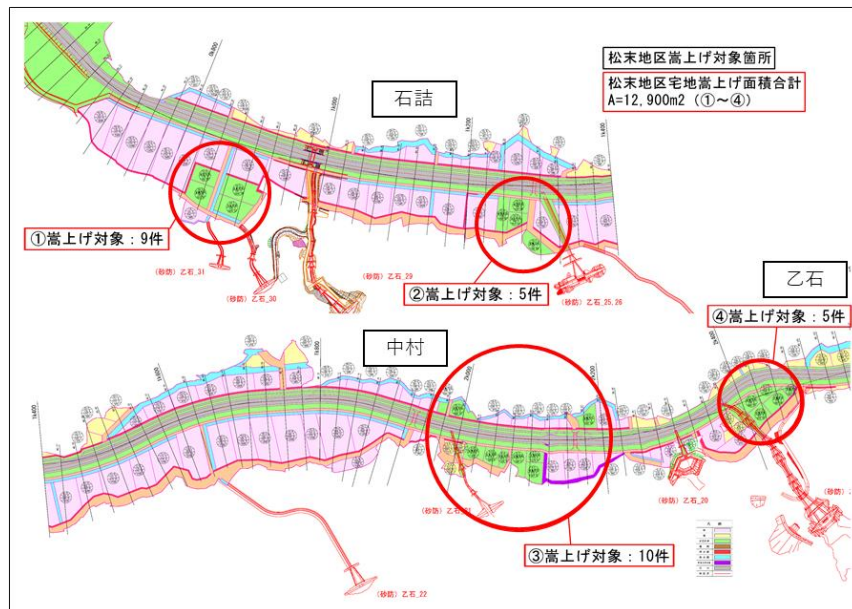


松末地区の整備エリア

### ② 宅地嵩上げ事業

堆積土砂による被災宅地及び公共施設の一体的な嵩上げ復旧を行い、すまいの現地再建及び生活環境の向上、安全性の向上を目指している。

予定地区: 乙石川流域



宅地嵩上げ予定箇所

### ③ 松末小学校跡地活用

松末小学校に対する住民の思いを受け、本地区の再生・発展に向けたまちづくりの取り組みとして、小学校跡地の活用を引き続き検討。

小学校跡地は令和4年度まで、赤谷川、乙石川の河川工事及び県道付替工事として活用されるため、その間に具体的な検討を行う。



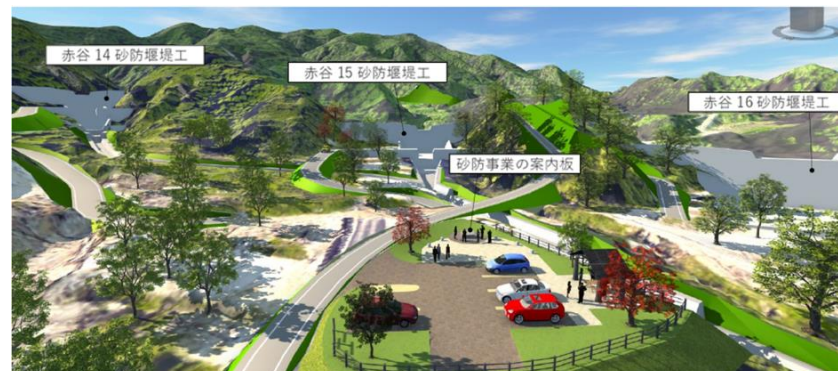
松末小学校跡地周辺の整備イメージ

### ④ 伝承広場

土砂災害の経験と教訓を後世に継承するため、令和元年度には記録誌を作成したところであり、今後は市内外へ発信するため、伝承広場を整備。

また、整備する施設が防災学習の場にもなるよう、現に機能している砂防施設などを活用しながら、防災の大切さが身近に感じられる箇所に設置することなどを配慮。

広場は、新たに建設される砂防堰堤(えんてい)や、川幅の拡幅工事などが進む河川、一から造り直される農地などがそれぞれ見渡せる場所を想定。



砂防堰堤付近の伝承広場整備イメージ図

### ⑤ 乙石川における小水力発電可能性調査の実施

災害から3年、復旧から復興へ、旧松末小学校を拠点とし、これまでより更に夢を持てる地域づくりを目指す取り組みの一つとして、地域資源を活用した再生可能エネルギー導入のための調査を行っている。

乙石川から取水して旧松末小学校で発電し、地域消費がされつつ災害時には自立電源として地域の電源の一助となることが可能な小水力発電と電力利用方法や運営主体についての可能性調査を行うこととなった。